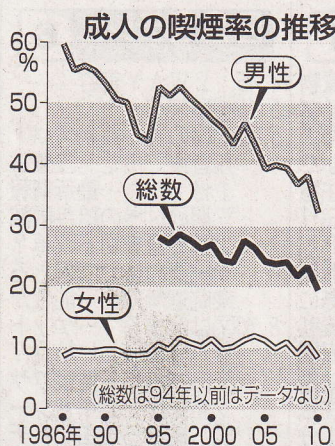


平成 24. 2. 1

喫煙率最低
2割切る

厚労省10年調査

2010年の成人の喫煙率は19・5%で、前年と比べ3・9%¹⁾低下し過去最低となる一方、禁煙したいと考えている喫煙者が過去最高の37・6%に上ったことが31日、厚生労働省の国民健康・栄養調査で分かった。同省は「たばこ税の増税に伴う10年10月の値上げを機に、たばこをやめた人ややめたいと思う人が増えたのではないか」としている。この結果を基に厚生省は、13年度からの次期健康づくり計画に「22年度までに喫煙率を12・2%以下にする」との目標値を明記する方針を固めた。次期がん対策推進基本計画にも同じ目標値を盛り込む方針。



※厚労省調べ。2003年以前と以降では喫煙者の定義が異なり単純比較はできない

国民健康・栄養調査
健康増進法に基づく調査

で、生活習慣病対策などの基礎資料にするため厚生労働省が毎年実施する。2010年は全国から無作為に抽出した3684世帯が対象。調査項目は身長・体重・血圧、腹囲など身体的データに加え、食事の摂取状況や飲酒、喫煙、睡眠、運動など。

12.2%以下 目標設定へ

「禁煙したい」は最高に

生活習慣の地域格差

上位群	肥満男性の割合	習慣的に飲酒する男性の割合	男性の喫煙率
	福島、栃木、徳島、宮崎、沖縄など	青森、岩手、秋田、鳥取、島根など	北海道、青森、山梨、和歌山、鳥取など
	↑14.5 ↓ポイント	↑11.9 ↓ポイント	↑8.7 ↓ポイント
下位群	福井、静岡、滋賀、鳥取、山口など	群馬、静岡、三重、香川、沖縄など	群馬、福井、長野、岐阜、熊本など

※2006～2010年の国民健康・栄養調査結果を基に分析

喫煙や飲酒率に地域格差

喫煙率の目標値設定は実現すれば国として初の取り組みだが、たばこ業界は反発している。

喫煙していると回答した人の割合は男性32・2%（前年比6・0% 減少 、女性8・4%（同2・5% 減少 ）で、調査

調査は10年11月に実施。全国の20歳以上の男女計7881人から回答を得た。習慣的に降でいずれも最低。全

都道府県のうち喫煙率は習慣的な飲酒、肥満などの割合が高いグループと低いグループでは、おおむね10歳前後の差があることが31日、厚生労働省の国民健康・栄養調査で分か

た。

習慣的喫煙者で「たを反映した。

ばこをやめたいと思う」と答えた人は男性35・9%（同4・2%増）、女性43・6%（同2・0%増）。男女計る目標値を設ける方

の割合も含めいづれ
も、同様の質問を設け
た07年以降最高。

針。 目標値を入れたがん
対策推進基本計画の素

目標値は、今回の調査でたばこをやめたいと回答した人が全員禁煙したと仮定して算出。「やめたい人がやる。計画と次期健康案は2月1日に示され、同計画に基づくり計画は、いずれも4～6月ごろ正式決定の見通し。

った。生活習慣について厚労省が地域別の傾向を分析するのは初めて。結果を参考に、各自治体が策定する健康づくり計画に改善策を盛り込んでほしいとしている。

ループ（下位群）の平均値を比較した。男性の肥満者の割合では、上位群の平均39・7％に対し、下位群は25・2％で14・5ポイントの差があった。同様に習慣的に飲酒している

2006～10年の5年分の調査結果を基に分析。ただ「データ数は8・7割差があった。男性の割合では11・9割差、男性の喫煙率で

このほか1日当たり
の歩数や野菜摂取量、
食塩摂取量でも地域格
差がみられた。